

# 甲斐市教育委員会第1回定例会議事録

- 1 日 時 平成28年4月27日(水)
- 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 教育委員会会議室
- 3 開 会 午前9時25分
- 4 出席者 **【教育長】** 西山豊教育長  
**【委員】** 清水學職務代理、柳本博美委員  
長田明美委員、新海宏子委員  
**【説明員】** 生山勝教育部長、望月映樹教育総務課長  
内藤和彦学校教育課長、保坂江里生涯学習文化課長  
梅原剛スポーツ振興課長、剣持豊彦図書館長  
坂本公彦学校教育指導監、久保欽一教育総務係長  
河野晴美教育総務係
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 なし
- 7 前回議事録の承認 平成27年度 第12回定例会議事録 「承認」
- 8 教育長からの報告
- 9 議 題  
第1号 平成28年度甲斐市生涯学習推進計画(案)について  
第2号 平成28年度甲斐市スポーツ推進計画(案)について  
第3号 平成28年度甲斐市図書館事業推進計画(案)について
- 10 その他  
(1) 平成28年度地教委学校訪問及び管理主事訪問について  
(2) 平成28年度教育委員会工事執行計画について  
(3) 平成27年度及び平成28年度創甲斐教育推進事業について  
(4) 平成28年度甲斐市立小中学校就学児童生徒数について  
(5) 学校給食費収納状況について  
(6) チャレンジデー2016について  
(7) 5月の行事予定について
- 11 閉会 午前11時35分

## ○開 会

事務局 開会を宣する。

## ○あいさつ

教育長 みなさん、おはようございます。

新年度となって、初めての業務の中で、一日一日が慌ただしく過ぎていき、一ヶ月が経とうとしております。

教育委員会の事務局職員も何人か顔ぶれもかわっております、新たなスタッフになって、初めての定例会ということになります。

各部署とも全員が全力で頑張っておりますので、よろしく願いいたします。

入学式や、教職員の異動に伴う着任式など、年度始めで様々な行事や会議がございました。委員の皆様には、それぞれ対応していただきまして、ありがとうございました。

本年度の新入生は、小学生 704 名、中学生 655 名を迎えまして、16 校合わせて全校で 6,128 人の児童・生徒が、甲斐市の小中学校で生活を始めております。

すべての児童・生徒が、明るく、楽しく、元気よく過ごすことができるよう、きめ細かな指導をお願いしていきたいと思います。

19日には、本年度も全国学力学習状況調査が行われました。

公表については、昨年も、様々なご意見をお出ししていただく中で、甲斐市の教育委員会としての方向を出していただいておりますが、本年の対応についても、子供たちの学力向上を基本において多方面から考え、みんなで確認していきたいと思っております。

今週の月曜日に、竜王北中学校の校長が、文部科学大臣表彰の報告に来られました。

子どもの読書活動優秀実践校という賞で、日常の読書活動や、小学校との連携した活動が評価されたものです。創甲斐教育の推進の成果の一つと思え、大変うれしく思いました。各学校とも、頑張っている姿がいろいろなところで見えます。みんなで努力していきたいと思っております。

教育を取り巻く環境は、いろいろな課題が山積しておりますが、甲斐市の教育の推進のために、よろしく願いいたします。

## ○教育長報告

教育長 それでは、4月の諸報告をさせていただきます。1ページをご参照お願いします。

まず、4月1日には、午前7時15分から管理職昇任者や新採用職員

などに対する辞令交付式のあと、午前中に年度初め式があり、市長から訓示を頂戴しました。

また、席上では、勤続20年・30年の職員表彰がありました。

午後3時から委員の皆様方ともども、教職員の着任式に出席いたしております。

4月4日午後2時から県の総合教育センターで、教職員の初任者研修についての説明会がありました。本年度は、小中高・支援学校併せて、153名が採用となりました。該当校の校長先生方ともども出席いたしました。

5日には、県の義務教育課及び中北教育事務所の訪問をいただきまして、相互の職員紹介、業務についての確認、県教委の依頼事項等の説明を受けました。

同日午後7時30分より、スポーツ推進委員委嘱式が防災対策室で行われました。25名の委員に委嘱しました。継続が24名、新規が1名でした。

6日には小学校の入学式、7日には中学校の入学式、皆様と同様、出席いたしております。

また、7日の午後には、本年度の第1回チャレンジデー実行委員会に出席しました。

7回目の参加となる本年度の実施内容や予算案が承認されました。

本年度の対戦相手は秋田県大館市で、今年で4回目の参加ということではありますが、過去最高の参加率69.6%で、予想はできませんが、勝利へ向けて実行委員の皆さん方も気持ちを高めておりました。

8日、県立高校の入学式がありまして、私は甲府昭和高校の入学式へ出席いたしました。

同じく8日の午後からは、16校会が開催されました。地教委の事業等への協力のお願いや、年間を通しての周知や依頼事項等の説明をいたしました。

また、年度の初めにあたり、校長先生方のリーダーシップのもと、信頼をより確かにする学校経営や、修学旅行をはじめ校外活動での安全管理の徹底、教職員の不祥事の根絶、交通事故防止などの取り組みを、改めてお願いいたしました。

12日には、県の総合教育センターで人事評価制度説明会がありまし

た。

平成 28 年度から人事評価制度が本格導入されますが、評価結果が直接給与、ボーナスに反映されるということで、各校長、各地教委とも、評価方法をいかにしていくか悩んでいる姿が見えました。甲斐市でも能力評価・業績評価・意欲評価の 3 項目についてどのように評価していくのか、任用・給与・分限・その他の人事管理の基礎として、どう活用していくのか、今後さらに研究していく必要性を感じました。

18 日の午後には、山梨県都市教育長会の定期総会が開催されまして、平成 27 年度の事業報告と決算報告、28 年度の事業計画と予算案等を審議いたし、承認されました。

21 日午前 8 時 30 分より、竜王中学校で自立創造の鐘の除幕式が行われました。市長とともに教育委員会も教育長、教育部長、学校教育課長、指導監が参加しました。全校生徒も参列し、厳かに除幕され、澄んだ鐘の音が鳴り響きました。チーム学校としての頑張りを期待しました。

同日午後には、J A 梨北の代表理事専務の方が訪れ、双葉地区小学校 2 校への食育教材についてのお話を伺いました。

26 日には午後から、中北地区教育委員会連合会総会が中北教育事務所で行われました。昨日のことですので、記憶は新しいと思います。

27 日、本日ですが、定例教育委員会が開かれております。

午後 1 時 30 分から、甲斐市文化協会総会が、敷島総合文化会館で開かれます。

28 日には、午後 1 時 30 分から、甲斐市文化財審議会委嘱式が、北部公民館で行われます。また、夜には双葉ふれあい文化館で、甲斐市体育協会の総会が予定されておりますので、出席いたします。

私からは、以上の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## ○議 題

- (1) 平成 28 年度甲斐市生涯学習推進計画 (案) について  
事務局 (別冊資料説明)

委員 生涯学習の中で、子どもクラブという言葉と青少年の育成ということの線引きのところがよくわからないです。地区でこれをどう扱っていくのか。昔からある子どもクラブというのは、子連という形で県に組織が

あってやっており、青少年育成との関係の育成という部分と子どもクラブの育成をどのように取り扱っていくのか、地域でもそのことを言っても説明のできる人がいないんです。

事務局

地区によって子どもクラブで活発に活動しているというところもあるのですが、子どもクラブは自治会単位で、青少年の健全育成は旧町地区に地区民会議がありまして、その中で活動しています。

委員

地域によっては、子どもクラブと育成会が一体化しているんです。すみ分けがはっきりしていないと、事業の中で、球技大会は子どもクラブだけど、育成会として参加しているという立場の人が多い。

組織的なものが、うまく精査できないかという意見要望なのですが、今後、県とも関係を詰めていっていただきたい。あまり複雑化するよりも単純化した方が今は取り組みやすいと思うのですが。

昔からの子どもクラブの方が、県の球技会もしているので組織としては強いと思うのですが。そのあたりの言葉のすみわけが非常に難しいと感じています。

教育長

子どもクラブは県の教育委員会の社会教育課の管轄、育成会は知事部局の管轄で、県からは2つからきて、町や市はその部門によって一緒にしているところと別にしているところがあるから、地区に入っていくときに系統性がいろいろなところからきてしまう。

委員

受け皿のところは複雑化していますが、県は単純化している部分で説明ができないという状況かなという感じがします。そのあたりが明確化するとありがたいと思いました。

委員

2ページの4の生涯学習指導者の養成についてですが、数値はほぼ足りていますが、具体的にこういう分野の指導者がほしいなとか バランスはどうでしょうか。必要ないところにたくさんの登録があったりとか、活用も課題とは思いますがその点は感じたことがありますか。

事務局

特にこの分野が足りないということは無いです。体育とか趣味とか学習部門とか、特にこの部門が足りないということは特に感じていません。

委員

これは、1年更新ですか。

事務局

2年更新です。

委員

自分で断ってくる人はいますか。

事務局 通知を差し上げた時に、今回はという方は数名いますが、引き続き継続する方が多く、新規で年間40人くらい入ってくるので人数的には多いですが活用の方が問題です。

委員 お呼びが無かったら辞めますという気持ちの人もいるのでしょうか。活用が難しいですね。ありがとうございました。

教育長 他にいかがですか。

一同 異議なし

(2) 平成28年度甲斐市スポーツ推進計画(案)について  
事務局 (別冊資料説明)

教育長 ご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同 異議なし

(3) 平成28年度甲斐市図書館事業推進計画(案)について  
事務局 (別冊資料説明)

委員 計画そのものについてではないのですが、職員の方が毎年いろいろ工夫されている企画を立ててくださって、本当に大勢の方に来ていただきたいイベントがたくさんあるんですが、私も敷島図書館でボランティアをさせていただいて感じたことです。割と来ていただく方が定着していて、常連さんがたくさん来ていただくのはありがたいですが、なかなか新規の新しい方を勧誘することがこのところ難しいと感じています。図書館を普段利用している方は図書館に掲示があると目にしたり、広報を見ていただけたらと思うのですが、普段来ていない方にお知らせするための宣伝の仕方にもうひと工夫何か出来たら、もう少し新しい方が開拓出来ている方に来ていただけるのではないかと感じました。

今、具体的にこういう案はというものはありませんが、たとえばメディアで山日新聞とかを利用するとか、大勢の方に知っていただく機会があるといいなと思いました。

事務局 そこが、甲斐市の図書館の弱点でありまして、利用者は多いのですが、PRが弱くて、イベントについては韮崎の図書館が非常によくPRしていますので、それ以上のPRをしていく計画でいます。

単にポスターを作って図書館の中に掲示ということではなく、これ

を外に出して銀行関係、郵便局とか公共的な施設に貼り出しのお願いに行こうかと考えております。

事務局

県立図書館の返却についての説明をお願いします。

事務局

計画とは別ですが、県の事業で、5月10日から広域返却という事業名でスタートします。

これは、県立図書館で借りた図書の返却が県内の図書館で可能ということで、とりあえず半年間、試行期間ということで甲斐市と北杜市と富士吉田市と都留市の4つの図書館を返却館として試行することになりました。

県に事業を始めた理由を聞いたところ、息子さんの車で遠くから借りに来たとき、近場で返せたらという意見があったそうです。利便性を考えてのことだということでした。

甲斐市としての要望としまして、県だけの事業ということではなく、山梨県の非常によい図書館づくりをしていただきたいという要望も上げまして、県だけがよいということではなく山梨県全体の図書館がよくなればということです。

甲斐市でも6割は市内の方ですが、4割はほとんどが甲府ということで、遠くからの方もいまして同様な状況になるのではないかと思います。若い方なら車で来ますが、高齢の場合は同じようなケースになります。誰かが運転しないと来れないということになりますので、逆に市町村で借りた図書を県で返せたり、市町村同士で返せるような体制を作っていただきたいと県に要望し検討をしていただくことになりました。

まず、5月10日から半年の試行期間をのなかで良い、悪いを決めて、正式には秋に他の館も含めて広域返却という事業を始めるということになりました。

委員

広報化、どのようにPRをしていくのかという一つの方法として考えられることとして、各地区の公民館、集いの場に市の広報的なものをお知らせできるようなスペースをとれたらと思います。それには予算がかかりますし掲示板もかかりますが、地域の人たちが常に利用している部分で目につくということである程度のPR力は高まるのかなと思います。市の掲示板の設置を、ある地区で試験的にしてみれば、徐々に広めていくというのも一つの手段としていいのではない

か。

広報だけでは、各施設、図書館に行かない人は目につかないが、地域なら目につくということもあるので、こういう事業の着手も必要なのかなと思いました。図書館ばかりではなく、すべての市の情報が伝えていくには、何重かの方法でしていけば浸透していくのではと思いますので検討の一つかなと思います。

教育長                    そのほかありますか。

一 同                      異議なし。

○その他

(1) 平成28年度地教委学校訪問及び管理主事訪問について

事務局                    (資料説明)

教育長                    地教委の学校訪問について説明がありましたが、2ページについてよろしいでしょうか。

検討をしてほしいという4ページ(学校訪問協議事項)を開いてください。

付け加え、変えたいということがありますか。

事務局                    この内容について、事前に学校にお配りして記載していただいたもので、当日打ち合わせ、協議をします。

教育長                    話し合いの内容を深めるという意味でということですか。学校に伝えて考えておいてもらうというのは。

事務局                    学校に事前にお配りして回答をいただいたもので協議します。

教育長                    何か付け加えとかありますか。

委員                      2番の不登校及びいじめ対策についてですが、去年の学校訪問において、各校長先生のお話ですと不登校があるにしてもいじめ等については、一応落ち着いている、特に問題はないような回答をいただいた記憶があります。そんなことから、特に項目にあげなくても、3番の児童・生徒指導の中に、たとえば不登校及びいじめ対策についての項目を付け加えたなかで記述する方法もどうなのかと感じています。

私たちが見学する中で、子どもの状況と併せて先生方それぞれの姿勢、様子なども必要だと思うので、そういう項目を設けるかどうかということですが、その項目の中で先生方がどう考えているか、先生方の様子ということも項目の中に入れるか、違うところに記述をして



説明を受けるかということもあればいいかなと感じます。

教育長

去年の質問の返答に対して、ある程度もうこれはいいのかなというものは、大項目の中に入れてしまっているのではないかという意見です。

先生方の様子というのがよくわかりませんが。

委 員

4月から学校訪問までという1、2か月で、それなりに問題のあるような先生もおりますし、教育委員会としてこのようにしなければならぬという意見がいただけるということであれば、校長先生の意見とか考え方もお聞きするという必要なのかなということだと思います。

教育長

お聞きする中で、焦点化する先生がいれば見てみたいということですね。

事務局

文章で出すことはなかなか難しいところもあるかと思います。意見交換のなかで率直な意見をいただければと思います。

委 員

6番と7番については、この会でどんなことをと提案されているもので、大きな枠の中とは全く違うのでこれを今年は削除していいと思います。

委 員

四角四面の返答しか返ってこないのです。

委 員

たとえば、職員権限の法的根拠はどこかということを知りたかったがそこに全く触れていない校長がいるわけで、内容的なことについてもその辺でどうなのかなと。

学力向上についても様々なことということで、ここ2年追加しましたので、6と7は削除していいと思います。

必要があれば、上記の中で整理していけばいいのかなと思います。

今年は人事評価があるので、校長がどんな姿勢で人事評価を取り組んでいくのかそのあたりを聞きたいというところがあります。

内容的には大変だし、教育長が事前に学校長と話し合いをしていかなければならない部分でしょうね。

今年はとても大変だと思います。

試行から実施です。

教育長

一般的に校長先生の考え方を聞く場面はあるかもしれません。

6、7についてのこととか昨年度までの報告等を勘案していいですね。

また、全教室を見る、全先生を見るということで、見る中で掲示物

とかそういうもので見えてくるものがあると思います。教室を回るとい  
うことは大きいことだと思いますので、昨年と同じような形でよろし  
くお願いします。

委 員

このタイミングは、管理主事訪問と各学校、重なるから、掲示物と  
か学校の環境整備とか非常にやっているの、どこまでやっているの  
かその部分を見るだけでも、今年は生徒指導の方から玄関をこうしよ  
う、清掃はこうしましょうということを実施していきたいということが  
昨年度の中でもあるので、そのあたりは見た時に評価ができるし取  
り組みはどうされているのか、見やすく焦点化しやすいと思いま  
したので、そういうところが学校訪問で見れますので、ありがたいと思  
います。

事務局

3 ページの日程についてですが管理主事訪問が6月22日に市教委  
が予定されています。教育総務課の方から、できれば管理主事訪問の  
前に委員さんも各学校を把握しておく、管理主事といろいろ話がで  
きるのではないかという意見もありましたが、資料が出て学校に配ら  
れ回答をもらってスタートということになりますと、どうしても時間  
がかかってしまう、管理主事の方もいつということがはっきりしませ  
んでしたので、委員会が回らないうちに管理主事訪問ということにな  
ってしまいました。

教育総務課の方でもできればそういう方法にしたいのだけど、そう  
なると出発が5月早々ということになり、4月のこの時点で4 ページ  
の協議事項が決まって学校へとなると出発が遅くなりますので、  
もし協議事項が3月の教育委員会ではっきりできれば4月の校長会で  
こんな風にスタートするということで、少しでも回る学校は増えるか  
なというところなのですが、議会との関係でどうなるかわかりませ  
んけど、そんなことも今後検討していきたいと思います。

学校の事情としても、あまり早くてもどのようなものかなという  
ところもありますが。

教育長

日程的なことは限界的なものがありますね。

他にありますか。よろしいですか。

一 同

異議なし

(2) 平成28年度教育委員会工事執行計画について

事務局

(資料説明)

教育長

ご意見、ご質問等ありますか。

委員

生涯学習文化課の関係で中部公民館の解体工事に伴う件ですけど、直近に児童館があります。

工事現場のすぐ右を通って行くのですが、この間の児童の安全というのは学校と児童館の職員でみるのですか。

それとも工事関係者が、誘導を時間でしてもらえるのでしょうか。

事務局

業者が決まったところで打ち合わせをして安全の確保に努めていこうと考えております。決まったところで業者にお願いします。

委員

もちろん学校側もみるでしょうが、そういうことも含んでいるわけですね。

教育長

他にありますか。

一同

異議なし

(3) 平成27年度及び平成28年度創甲斐教育推進事業について

事務局

(別冊資料説明)

教育長

ご意見、ご質問はありますか。

委員

教育委員会の予算が相当減額をされている中での事業の計画、立案は相当大変なことだろうと思っております。

1 ページの27年度と28年度を比較してみますと金額的には28年度は37万円、27年度は実質26万円を使ったということです。

28年度は新規1校、竜王中学校が指定を受けるというなかで、金額的にもこういう風に抑えられている。講師の謝金が今まで6万円、これは一人に対してということなのか。3万円に下がっていますが、この金額は講師として6万が3万に下がったのか、それとも人数が変わったけど金額はこういう形で下げてきて、要するに金額を減額したということなののでしょうか。

事務局

大学の先生方をお呼びすることが多いのですが、それを例として話しますが、先生方を1回、90分くらいの校内研でお呼びすると1万5千円くらいの謝金を払います。そういう中で半日お呼びすれば1回で3万円くらいの謝金を払っています。それを基にすると回数、人数を減らすと言いますかそういう形になります。

委員 要するに学校として、これだけやっていたのに、今度はこういう形になりましたという説明をしなければならないのか、そうではなく、学校としてはこういう風に進めていきたいということで、講師に理解を得られるような講師料として考えていくのか。

事務局 このことにつきましては、使い切る学校が少なかったということもあります。

委員 それからもう一つ、3ページの言語活動を充実させる授業推進事業は、去年までは行っていたが今年は完全にやめたということか。

事務局 学力という視点でみていただいたと思われまますので、そちらに少しずつ移行していく、学力の向上の方に主体をさせていただくということです。

委員 これだけの成果が徐々に上がってきたということによる、方向の転換ということなのでしょうか。

事務局 大きな転換というわけではないのですが、少しずつスライドをしていくということです。

事務局 先ほど職務代理の方から予算の話がありましたが、実は甲斐市全体の予算につきましても、地方交付税が昨年は53億円あったのですがいわゆる一括算定ということで14億円減額になってまいります。

そういう中で当初予算の組み立てが各部から上がってきます。

そうしますと、企画政策部のほうで枠配分ということでシーリングが来ます。教育部の中でも何%削ってくださいという指示があります。そうしますと教育部の中でも優先順位をつけるなかで、減額を守らなければならない、減らさなければならないということになっております。

その中で1番大きなものにつきましては、建替工事とかについては何億とか何千万とかかかりますので、自然と先送りになっていくと、また、なおかつソフト関係の事業につきましても、スクラップアンドビルドではありませんが、いろいろとやり方を考える中で減額に対応できるというものを作っていくという現状であります。

これからますます厳しい時代になっていきますけど、できるだけ教育関係の予算は確保したいというところがありますけど、そうはいつでも甲斐市全体のことになってきますから、なかなか厳しいという状況があります。そのような状況の中で予算が少しずつ縮小になってい

る現状であります。

委員

3点質問があります。

まず、小中連携教育推進事業のところ、中1ギャップの軽減・解消の取組ということがありますが、竜王北小と竜王北中が2年間この事業をされた中で具体的にこの中1ギャップが、たとえば数値だったり何か事例だったり、こんな風に解消されましたということが具体的にわかればお聞きしたいと思いました。

2つ目が他人の子もほめて叱る運動の支援事業ですが、のぼり旗を作成して各自治会や学校に設置をお願いしたということで、先日、地区の区長さんからのぼり旗とお願いの文書を頂いたのですが、その中に、まず、子どもたちの名前を憶えましょうという項目がありましたが、今、子どもたちがだれも名札をしていないのにどうやって名前を覚えてらいいのかと質問されました。私も苦し紛れにいろいろな行事に参加して覚えてくださいと答えたのですが、自治会の方たちもお願いされたけど具体的に何をすればいいかということがわかっていないとおっしゃっていたので、このようなことで協力していただきたいと具体的なことがわかればお聞きしたいと思います。

3つ目は双葉中学校で3年生を対象にデートDVの講演会を行ったということで、私もこの講演を聞きにいかせていただきました。

内容を聞きましたら、デートDVというのは、とてもデリケートな内容でなかなかDVを受けている子どもたちが自分から声を上げることが難しいような内容だなと感じました。子どもたちを対象に行った講演会で双葉中でも保護者の方はどなたもいませんでしたが、もし可能ならば保護者とか地域の方とか子どもたちを取り巻く周りのおとなもこんなことがあるんだなということを知っていて気づいてあげることも必要なので、可能ならばですが、こういう講演会の時に聴く対象の方を増やしておとなも一緒に参加できるような形ができればいいなと思いました。

事務局

中1ギャップの小中連携の取組による成果という質問がありましたが、正直申し上げまして数字として何がこれだけ減ったというような統計というのは取りづらいという感じがしてそういうものはありません。

小中連携の中で1番重視したのが小学校6年生と中学校1年生のギ

ギャップということで、小学生にとって中学校というのはかなり敷居が高いところがあるので、そこのところを中学生の活動の紹介というなかで、中学1年生になった時にギャップと言いますか変化に軽減できるような取り組みを行っています。そういうことによって、軽減されたという具体的なものは今のところ表せるものになっていませんが、今後ともこういう取り組みを継続していきます。

竜王北中については、竜王北小は非常に近く身近な存在で、竜王東小や竜王小から来ている少数の児童が北中に行ったときに、ギャップと言いますか仲間関係もそうですが、同級生が少ないそちらのケアを今年はしたいという話を聞いています。

教育長  
事務局

2つ目ののぼり旗の件についてお願いします。

これは、平成24年度から始まった事業でその当時は子どもたちの名前を憶えてということのを推奨してきましたが、この中で他人の子どもも自分の子どもと同じような気持ちを持って接していただきたいというところがあります。今のいろいろな事件がある中で他人の子どもを憶えてというところについて今回は削らせていただきたいというかたちで、他人の子どもも自分の子どもと同じように愛情を持って接していただきたいというところを継承していきたいと思います。

教育長  
事務局

男女共同参画事業についてお願いします。

これについては、担当が市民活動支援課となりますが、私の方から委員さんがおっしゃられた内容はその通りだと思いますので対象者の拡大について検討するように話をしておきます。

委 員

小中の連携の中で、データが出ればありがたいのは、北小と北中の交流について中1ギャップがあるという何かの視点があれば、竜小から行った子ども、竜王東小から行った子どもが同じように生活していたかどうか、中学校側の教師が見る目のところで何に焦点を合わせた中1ギャップが表れているのか、そういうデータがでてくると、非常に今年から始める敷島地区の小学校3校と敷中との関係、小中連携の取組との比較ができるということで、敷島地区を指定したことは画期的なことだと個人的には思いました。要するに竜王北小と竜王北中との連携の関係は1校だけ、しかし来ているのは3校から来ているという中でのデータと、今年、来年しようとしているデータがうまく擦りあわせられて中1ギャップの何を見つけられたのか、何に成果をあげ

られたのかということが出てくれば非常にありがたい、具体的なもので今後検討できるということ、また具体的なものが出てこないと何の検討もできない、見えないので、具体的なものが出てくると非常にありがたいなと思うので、その取り組みができるなと思っています。今年からしようとしている甲斐市16校の生徒指導で提案された3つの条件、16校がすべてするのでそれへの取り組みを増やしていくことによって中1ギャップも減っていくし、A小学校ではこの点では許していたけどB小学校では許していなくて、中学校に入ったら格差があって中学校の先生たちも迷ってしまったということもあるので、やるべきことは何かという授業規律の問題にしても、生活上の問題にしても16校で共通して高めていけるというところへつなげていただければ、研究指定の目的が達成できるのかなと思います。長く時間はかかるけど徐々に蓄積していくことの大切さを感じまして、今年は敷島地区がどのように変わっていくのかと期待していますのでよろしくお願いします。

教育長

評価の観点というか、项目的なものを作っていけたらどうかということで、その方の資料もよろしくお願いします。

委員

7ページのコミュニティスクールの件ですけど、双葉西小が長く指定を受けて27年度も実績を出していますが、その一方で課題もどんどん見えてきている段階に入ったと思います。28年度では中学校区を中心としたコミュニティスクールの拡充について具体的な方策を研究するとありますが、指定は双葉西小、今度は広がって中学校区にも手を広げるということで、具体的にどのように考えているのですか。

事務局

これにつきましては、具体的に何年度から双葉地区、双葉中学とか何小とか、何年度から確実にコミュニティスクール、運営協議会をするとかというようなところまではっきりしたものはないのですが、コミュニティスクールについて双葉西小で大きな成果を上げていますので、それと全く同じような形というのは応援団のある学校ない学校がありますので、そういうところも含めて西小の取り組んできた一番いいところを双葉地区で広げることができるかどうかの方向性を模索していくというところで、今後双葉地区の管理職の皆さんが双葉西小と既に何年も前から双葉地区は交流があるので双葉西小の運営協議会についても参加したりとか、運営協議会の委員としてではなく、こうい

う話をしてこういう実績を上げているというのを見ていただいてそういう中で少しずつ広げていくということを模索してもらおうという形を考えています。

委員

将来的にはこの中学校区の研究も経ながら、他の甲斐市の地区にも広げていくというところはあるですか。

事務局

それについては研究していきます

委員

難しいですけどよろしくお願いします。

事務局

関連ですけど、成果は出ていると思いますけど、中にはうちの地域ではありませんけど、学校評議会に少し人数を入れて運営協議会として年2回会議を開いてできましたというところも全国にはあるのですが、それだと子どもに対して、せつかくのいいコミュニティスクールが子どもに帰ってこない、双葉のようなものを是非地域で共有していきたいというのが一つの流れです。もう一つは双葉にあるものを同じような応援団組織を活用してコミュニティスクールができるような学校が、竜王地区あるいは敷島地区にないだろうかということで、双葉、竜王、敷島3地区でコミュニティスクールを作れないだろうかというように含めて、中学校区で広げるということも当然前の広がり方だと思います。地区で広げていくということもあると思います。その辺も含めて考えていきたいと考えています。

事務局

7ページの英語ふれあい教室ですが、英語に力を入れていかなければならないこれからの社会、学校教育だと思いますが、この中で場所は去年は北部公民館、今年は市内公民館ですが、敷島、双葉でもということを考えているのか、それとも地域性から北部公民館なのか。

事務局

北部公民館を基本的な会場として使用する予定となっています。

中部公民館が無くなったということで、非常に混み合っているということで、確実にとれるかどうか分からないので、市内公民館ということで予定しています。

事務局

本当は、地域でそれぞれ設定できればいいのですが、そのあたりはなかなか難しいところがあるかと思います。子どもたちによりよい英語の魅力が深まるような計画を立てて進めていただきたいと思います。

委員

先ほどのコミュニティの話に戻って申し訳ないですが、今、中学校区もというのは自然的な考えだと思います。小学校から中学校に上がってくる子どもたちが、そこで体験している各学年で地域の応援団と



ともにやったり、地域の環境について河川について研究をしたりしている子どもたちが、中学校に上がった途端にそれが切れてしまう。継続というのがほとんどされない状況、小学校だけの活動であって中学校では全く出来ない、部活もあるしあれもあるしこれもあるという後付理由でそういう形に持って行ってしまう。しかし子どもにとってみると、上がってきた子どもはそこでキャリアを積んでいろいろなものに視野が広がって、研究心も深まってと様々なものが身につけている子が何割かいると思います。それを継続していきたいという子どもには願いがあがる。応援団がどうかということではなく中学校がそういう姿勢で受け入れてやれるか、懐を持っているかどうかというのが一番の問題だと思います。そういう子どもについて。研究を深めていく、ホタルのこと、生育についてホタルをどう環境を整えてやっていくかということをしていて、その地域の子どもたちはできるけども、他から来て、今まで参加してやっていた子どもたちが参加しづらくなっているという部分もあるかもしれない。中学校がどういう体制でそこを受け止めて、どんな形で子どもたちの学びについてキャリア的なものを積ませるかということを考えなければいけないかなど、小中のところ、中学校区をとすることは十分に研究していかなければいけないことではないかなと思います。これをどう発展させて子どものキャリアにつなげていくのか、生涯研究をしていこうとか、将来そういうものに結びつけていくのかということを含めて考えていけば、非常にコミュニティということは大事な部分ではないかと、教師より子どもたちにとってという部分で、子どもたちの手助けになるよう学校も受け入れの体制、意識を持つべきではないかということで、双葉中学校区のその部分が大事になってくる、せっかくなのでいい結果が上がってきているので。

事務局

認識が違っていたら申し訳ないのですが、六反川、米笠のホタルの研究を子どもたちがされています。その子どもたちが双葉中学校に入って六反川の水の研究をしてサイエンス賞をとりましたが。

委員

それとは、ちょっと違うんです。

一緒に合体できるという方向にもっていければ、コーディネートしてくれれば一番ありがたいのだけど、それとは離れている部分がありましたので。ホタルの方だけが今クローズアップされている、河川の

方はあまり活発ではないという。

事務局

確かサイエンス賞というのをもらいましたよね。水、環境の関係で。母体が米笠のホテルのことなんでしょうね。

委員

それがそこへ繋がっていけば一番、だから合体をしてそういったもので河川調査をしながらどういうところに生息できるか、どういうものがあるかという調査をしてやっていく、それが長い時間がかかるので中学校へ行ってもやらなければだめなんですよね。できればそういう環境が必要かなと思います。

委員

今、例として全国の状況というものを相当研究が進んでいるということなんですか。その辺を、実際どういうふうな経過をとって大きな成果をあげているのかというその辺を知る必要があるかなと我々に示していただければと思います。

委員

国の言っているコミュニティスクールの最初目指したものは地域の声を入れて学校をガンガンいじめてやれという、いろいろな声を入れて人事までしていいのではないかということをやっているから、双葉の地区のそれは、甲斐市としては違うよ、こういう形でやるんだよ、そして今度は文科省がああ素晴らしことをやっているなど認め出しているわけで。都会と田舎は違うんだというギャップを感じてないのですよね。文科省は見えていないから。そういった意味で、大事にしたいなということが根底にあって、画期的でほんとにすばらしいことを今研究しているので、これを全国に発信しない手はないので甲斐市の知名度を上げていく必要があるかなと思います。

教育長

学校、地域の連携ということは、非常に大きくとらえられていて、新しい指導要領の改訂の一つの柱にカリキュラムマネジメントという社会に対応できるような人間を作るという方向に世の中も行っていいようですね。

委員

関連ですけど、先生方の負担感というのがコーディネート業務を含めてまだまだあるということですよ。今回はシステムの構築について研究するということが非常に大事な部分だと思います。あまり負担感が大きすぎるがゆえにレベルを落としましょうとか縮小しましょうという方向に行くのではなくて、このレベルを保ちながら一番いいシステムがあるのかどうかということ、全国に学びながら進めていただければ、先生方もやる気で生きがいを持ってできるのではな

いかと思いますのでよろしくお願いいたします。

教育長                   ほかに、ご意見はございますか。なければよろしいでしょうか。  
一 同                    異議なし。

(4) 平成28年度甲斐市立小中学校就学児童生徒数について  
事務局                   (資料説明)  
教育長                   質問、ご意見はございますか。なければよろしいでしょうか。  
一 同                    異議なし。

(5) 学校給食費収納状況について  
事務局                   (資料説明)  
教育長                   質問、ご意見はございますか。なければよろしいでしょうか。  
一 同                    異議なし。

(6) チャレンジデー2016について  
事務局                   (別冊資料説明)  
教育長                   質問、ご意見はございますか。なければよろしいでしょうか。  
一 同                    異議なし。

(7) 5月の行事予定について  
事務局                   (資料説明)  
教育長                   質問、ご意見はございますか。なければよろしいでしょうか。  
一 同                    異議なし。

○閉 会

事務局                   本日、本定例会に付議された議案の審議を全て終了したので本定例会の閉会を宣する。

閉会時間 午前11時35分